令和8年度文京区アカデミー推進協議会
第2回分科会(学習活動分野)概要記録

日　　時	令和8年7月23日(木) 18:30～20:09
会　　場	文京シビックセンター17階　福利健康会議室
出 席 委 員	荻野亮吾委員◎、米川清水委員、三浦武裕委員、滝沢克也委員、 細谷はるか委員、那須晴吾委員、篠原秀徳委員、相澤みどり委員、 中島多津子委員（座長◎）
欠 席 委 員	なし
事　務　局	吉本アカデミー推進課長、奥田真砂中央図書館長、金子アカデミー文京所長 (シビックホール館長兼務)、眞野アカデミー推進係長
資　　料	次第、資料第1号　施策体系(案)について、 参考資料第1号　文京区アカデミー推進協議会分野別分科会名簿
(議事) 1　議題 ○委員意見 ◆事務局説明	1．施策体系(案)について 分科会資料第1号に基づき、基本理念～基本方針について説明。 ○現計画の課題(体験型プログラムの充実、オンライン学習の選択等)は、新たな基本方針にどのように反映されるのか。 ◆課題を踏まえ広い視野で基本方針を考えている。具体的な対応は、次の施策フェーズで反映し、PDCAサイクルで評価していく。 ○現計画は区民の主体的な学習活動の支援等に主軸があったが、今回の基本方針は区側が機会を提供・展開していく区側主導の図式に見える。 ◆まずは情報発信等のきっかけづくりが重要と考えているが、区からの提供だけではなく、学んだ人材が地域で活躍できる次の展開までを考えている。 ① 基本方針1「だれもが気軽に参加しやすい環境の構築」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針1の施策について説明。 ○コロナ禍を経てオンライン学習が普及し、子育て層など新しい層の掘り起こしに役立った。ターゲットの見極めが必要である。 ◆対面を含めたハイブリッド型も馴染んできた。ターゲットを見極め、様々な方が選択できる環境作りが重要と考える。 ○以前課題に出ていた「体験型プログラムの充実」は、施策のどこに入るのか。

	◆「1人でも参加しやすい環境の充実」などに関わる。まずは体験した上で、継続してもらう必要がある。 ○高齢層には区報の発信力が極めて有効だが、若年層にはSNS発信の工夫等が必要である。夏の暑さなどからハイブリッド型の開催が求められると考えられる。また、高齢者はスマートフォンを持っていても活用が苦手な方も多いので、慣れた方と分けて考えるべきである。 ○情報発信は年代別等で分け、ターゲットを明確にすべきである。実施の際は、内容によりオンラインか対面かの工夫が必要である。 ○情報の提供方法は世代や対象者ごとに分けてほしい。LINE も欲しい情報を選べる仕組みがよい。施設のチラシ配置も分かりやすく工夫するとよい。 ◎情報発信は世代やライフスタイルに合わせたツールの活用が課題である。講座形態も柔軟で多様な方法を、限られた予算の中でどう提供するかが重要である。 ② 基本方針2「多様な学ぶ機会の提供と活動継続のための支援」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針2の施策について説明。 ○リカレント教育やリスキリングなど、現役世代向けの講座は区としてどこまで対応するのか整理が必要である。 ◆現役世代向けの内容は、その範囲を含めてこれから検討していくが、全庁的な取組も含めて考えていく必要がある。 ○生涯学習は定着率の低さが課題で、資格取得後も仲間からの誘いなどがないと続かない。区等が参加のきっかけ作りをしていくことが重要と考える。 ○区内の大学資源を活かし、学生が地域で活躍・協力する仕組みがあるとよい。 ○大学側も地域と関わりたいとの思いがある。お互いの思いをつなぐ意見交換の機会などがあるとよい。 ○コミュニティの自然発生は難しい。講座の担当者が主導する等、どうつながりを作っていくのかだと考える。 ◆つながりづくりの支援や、コミュニティができるような講座の工夫が必要と考えて

	いる。 ○こども向け講座から商店街や町会とのつながりが生まれた事例もある。そういったつながりを計画にうまく盛り込めるとよい。 ○年齢で区切らず、シニアが自信を持って取り組める仕事や活躍の場につながる講座、専門的な医療関係の講座等を提供してほしい。 ◎区としてどこまで対応するか整理が必要である。講座とその後のサークルづくりを含めた支援策が求められる。大学等との多様な連携も参考になる。 ③ 基本方針3「学びを活かせる環境づくりと地域への展開」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針3の施策について説明。 ○新しく学ぶ人を増やすことも大切だが、学習した人が指導者になったり、地域で活躍することが重要である。人材育成について、地域アカデミー、地域活動センターや図書館など、既存施設を拠点に支援できるとよい。 ○区内に資格を持ち教えられる方がどの程度いるか知る仕組みが必要で、人材バンクのように資格取得者や希望者を把握できればイメージが湧きやすい。 ◆資格取得者を任意の団体に登録してボランティアの機会を提供しているが、さらに拡大していくことが課題である。 ○中高生・大学生にボランティアとして関わってもらい、活動を継続することも有効で、展開場所として地域アカデミー等を拠点に検討するとよいと考える。 ○区民自身が知識を披露する場づくりなどを企画し、提供する方式なども考えられる。 ○資格を活かして、少額でも収入になり責任感を持てる仕組みへとつながるとよい。 ◎能力があっても活躍できる機会へどうつなげるかは多くの自治体の課題であり、マッチングの仕組みを広げることが大切である。成果を出す場所として様々な施設を意識していくことが重要である。
2 閉会	